

II-3-17 胸鎖関節の化膿性関節炎から骨髓炎を呈した1例

健友会 上戸町病院

○今村 祐子、富田 伸次郎、浦川 伸弘、菅 政和

胸骨骨髓炎の症例は比較的稀な疾患である。今回我々は、手術的に本疾患を治療し良好な成績を得られたので報告する。症例：40歳、体格の良い男性。既往歴、職歴：既往に特記所見なし、重い荷物を持つ仕事に従事している。現病歴：平成21年4月25日左鎖骨部の違和感を自覚し4月26日当院に初診となる。徐々に左前胸部の激痛に変わったため、4月30日胸鎖関節炎の診断にて胸鎖関節注射を施行するも無効であった。5月2日入院精査後胸鎖関節の骨髓炎の診断で5月18日病巣搔爬術を施行した。同関節を切開すると血清浸出液を確認した。培養検査では、peptococcusが検出された。術後特に大きなトラブルなく現在日常生活上仕事も支障なく行えている。考察：患者が何らかの免疫不全状態でなかったり、何らかの保菌者でない場合、診断、治療が遅れることもあり日常的に本疾患を念頭に置いた診療が必要と考える。

II-3-18 化膿性手関節炎の1例

新日鐵八幡記念病院 整形外科

○里村 匡敏、香月 一朗、田山 尚久、平野 薫、藤田 秀一、
田中 孝明、木村 岳弘、松本 敦志

【目的】比較的まれな化膿性手関節炎を経験したので報告する。

【症例】66歳 女性

【既往歴】60歳より尋常性天疱瘡にてステロイド内服加療中。

【現病歴】2008年2月血漿交換療法のため内科入院中起床時より誘因なく右手関節痛出現、同日当科紹介受診となる。理学所見上右手関節腫脹を軽度認めるのみで発赤、熱感などは認めなかった。単純X線上も明らかな異常は認めず。鎮痛剤の内服加療を行うも症状軽快せず2ヶ月後単純X線上関節裂隙の狭小化を認めた。膠原病由来の関節炎などを疑い膠原病内科受診、関節リウマチの診断を受けメトトレキサート（以下MTX）内服開始した。その後さらに関節破壊進行したため手関節の滑膜生検を行ったところ関節内からメチシリン耐性黄色ブドウ球菌が検出された。MTX内服中止し塩酸バンコマイシン・リネゾリド投与を行うも改善認めず滑膜切除・関節固定を行った。現在は自覚症状、臨床検査所見ともに沈静化している。